

animato

アニマート (音楽用語):『活発な、生き生きとした』という意

病院短信

『今年の夏』

二病棟 看護師長 渡辺 弘子

今年には『殺人的な暑さ』とも表現されるほどの異常な猛暑日が七月半ばから続き、子供からお年寄りまで熱中症で救急搬送されるという報道が毎日のようにありました。当院でも、院内の温度を下げたり十分な水分補給を心掛けたりと、例年の夏以上に患者さんの体調管理に注意してきました。

そんな中、二病棟に異変が起こってしまいました。暑さが激しくなってきたら七月中旬頃からウイルス性と思われる風邪症状が二病棟に蔓延し始めてしまったのです。通常、湿度が低く粘膜炎が乾燥する冬の時期に、抵抗力を失った粘膜炎から侵入したウイルスが爆発的に増え集団感染を起こすというのが一般的なのですが、湿度が高くそれほど粘膜炎も乾燥しないこの時期に症状が広がっていくのは当院では初めての経験でした。数名の患者さんから始まった症状も最終的には三十名近くの患者さんへと感染し、「三週間くらいかかる」という高野先生の言葉通り感染終息までほぼ三週間かかってしまいました。

症状は、嘔声(声がかすれる)から始まり痰がらみの咳が出始め、やがて三十八度前後の熱が出ます。熱自体は長くは続かずすぐに下がりますが、一週間程度の内服治療でほとんどの患者さんが治癒されました。体力が低下していた四名の患者さんが肺炎や気管支炎を併発したため点滴治療を行いました。すでに皆さん回復し離床できるまでになりました。

当院の患者さんのほとんどを占める高齢者は、治療期間が長くとADLや食欲まで低下し、認知症が急激に進行してしまうこともあります。それまで自力で食べていた方が食べる行為を忘れたり、嚥下困難が出てムセ易くなったりします。そのような患者さんには、すこしでもカロリー摂取量が多くなるように通常の食事から高カロリーの補助食品への切り替えを行ったり、食べやすい食事形態に変更したり、臥床している時間が長く車イスに乗って長時間体を起こすのがつらい患者さんには食事の間だけでも離床してもらうなど、様々な工夫を凝らして一日も早く元の生活に戻れるようにサポートしています。約二週間にもわたる面会制限や病棟閉鎖の期間、ご家族の皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。またご協力をいただいた皆様、ありがとうございました。

涼しく快適な秋が待ち遠しいですが、秋には病院恒例行事『秋祭り』が予定されています。

今年の開催日は十月十三日(土)。院庭にはたくさんのお花が並び、焼きそばやたこ焼きなどお好きなものを召し上がっていただけます。どのお店も他に負けない美味しさで、嚥下力の弱い患者さんにも食べていただけるように工夫もされています。中央に設置された舞台では、近隣の学校の吹奏楽部の皆さんによる吹奏楽演奏や男性職員全員による迫力のあるよさこいソーランなど、アトラクションも毎年大盛況です。日頃女性スタッフに囲まれちゃって小さくなって仕事をしている男性職員も、この日だけはカッコイイ頼もしい一面を見せてくれます。昨年は天候に恵まれず初の院内開催となりましたが、今年も院内でできると思います。皆様、楽しみにしてください。

まだまだ残暑が厳しい状況ですが、しっかりと患者さんの体調管理をして、全員で楽しい秋祭りに参加できるように職員一同頑張っています。



看護のひろば



3病棟 看護師

井手 利恵子

毎日暑いですね。この暑さからはとても想像できませんが、暦の上ではもう秋が始まっています。

この夏は病棟でも夏風邪が猛威を振るい、発熱された患者さんが多くいらっしゃいました。そんな夏風邪を私も引いてしまい、大変苦しい思いをしたので、体調管理も含めて毎日食べ始めた物があります。それはヨーグルトです。

夏風邪のウイルスには効果的な薬はなく、体力と免疫力を高めて自然治癒するしかありません。そんな免疫力を高めるカギを握る存在が『小腸』です。小腸には体内の免疫細胞の約6割が集中しているといわれていて、それらの細胞を活性化させることが免疫力を高めることにつながります。つまり、ヨーグルトの中に含まれる乳酸菌が免疫細胞に働きかけ、自然治癒力を高めるのです。

このような話は皆さんよくご存知だと思いますが、私は改めてヨーグルトの力を知り、これからも続けていこうと思いました。



医事課だより



医事課

平井 光子

今年の夏は湿気の多い猛暑が続きましたが、どう過ごされましたか？私は良く食べ良く寝るを取り、暑い夏をしのぎました。

暑い夏に食べたいのがアイスですが、当院では三大栄養素のほかビタミン・ミネラルを配合した栄養調整アイスを一年を通じてご用意しています。定番のバニラ味に加え、甘酸っぱいストロベリー、味わい深いチョコレートの3種類があり、患者さんはもちろんお子様までご賞味いただけます。1階受付にご用意していますので、ぜひお召し上がりください。

当院では、毎月初めに入院会計の請求書をお送りしていますが、請求書がお手元に届いていない場合は、お手数をおかけしますが医事課までご連絡ください。請求書が届いていない場合でも入院会計はできますので、受付にその旨お声かけください。また、住所変更などで保険証が変更になられた場合は、受付にて新しい保険証のご提示をお願いします。今年も厳しい残暑が予想されています。遠方からご面会の皆様は大変かと思いますが、お気を付けてご来院ください。心よりお待ちしております。



事務屋の独り言

常務理事 事務局長 瓦井 洋

『多剤耐性菌』

最近、新聞やテレビでよく目にする「多剤耐性菌」による感染症での死亡事例。アシネトバクターやエンテロバクターなどが主な耐性菌ですが、何となくウルトラマンに出てくる異星人みたいな名前前で、ちょっと滑稽でもあり少し不気味でもありません。さてこの菌、いったいどこから来て人間にどんな作用をするのでしょうか。前号でも、また、過去にも何回か日本人の薬好きはツイートしましたが、この多剤耐性菌の出現も日本人の薬好きが根底にある、と言ったら言い過ぎでしょうか。

『多剤耐性菌』、読んで字のごとく、数多くある抗菌薬(抗生物質)に対し、それぞれ耐性を持つてしまった菌、つまり抗生物質の効かなくなってしまう菌のことなのですが、これは日本の医療界にとつてかなり大きな問題だと思いませんか。何故ならばこの国の医療において、抗生物質を使わない医療なんてまず無いからです。

さてその抗生物質の歴史なのですが、ペニシリンから始まります。このペニシリン、一九二八年に英国のフレミング博士によって発見され、実用化には十数年も要したものの、第二次世界大戦では多くの戦傷者や負傷者を感染症から救った、という偉大な歴史があります。その後、抗生物質は数多く開発されてきたわけですが、言わばペニシリンは「抗生物質の始祖」であり「魔法の薬」でもあったわけですね。

ところが、このペニシリンにも実用化された数年後には「ペニシリン耐性菌」が出現し、このペニシリンに効かなくなった原因の多くは抗生物質の無秩序な濫用が引き金となったと言われ、更にその濫用(乱用)が続いたのが原因と言われています。今となっては「やっぱね」です。乱用、乱用の土壌が高齢者の医療にあつたと言ったら、またもや言い過ぎですかね。

本題に戻しますと、ここから耐性菌とその耐性菌に効く抗生物質のイタチごっこが始まりました。まず、ペニシリン耐性菌に効く抗生物質「メチシリン」が開発されます。そしてその数年後にはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)が出現します。この時には私も病院に勤務していましたので、自分の病院も含め、全国の病院がMRSAの対応で右往左往したのを今でもよく覚えています。そしてアシネトバクターの出現。

では、この『多剤耐性菌アシネトバクター』をなぜ病院が怖がるのでしょうか。それはこの耐性菌が院内の環境に広く存在し、また乾燥環境で長期間生存することから、各種感染症の原因となることが多いからなのです。例えばその症例は「肺炎、尿路感染症、敗血症、創部感染症」等々多岐にわたります。皆さん、この症例を見て何か思い当たることはありませんか。そうです、入院中の高齢者に多くみられる疾患なのです。しかも高齢者の入院患者は著しく免疫力が落ちていきますので、この菌に感染してしまうとかなり危険なのです。

ともあれ、耐性菌が出現した原因が、抗生物質の濫用(魔法の薬ですから濫用もやむを得ないとは思いますが)にあるとすれば、その責任の一端は病院にもあるわけで、大いに反省しなければなりません。私がこの病院業界に首を突っ込んだ今から四十年前、この頃から世の高齢化は目に見えるように進んでいき、それと共に一般病院の中にも老人病棟が出来始め、さらに全病棟が老人という病院が出現してきました。実はこの頃の診療報酬は全ての病棟や病院が出来高払い制度(検査や薬を使えば使うほどお金になった)だったのです。ですから病院にとって報酬の高い抗生物質を使用することは、医療にも経営にも必然だったのです(現在は一般の急性期病院がクリニックなどが出来高払い制度で、我々のような病院はごく一部を除いて定額制の報酬となっています)。

ともかく、理由は何であれ抗生物質と耐性菌との「イタチごっこ」はこれからも半永久的に続くと思われれます。『物事の帰結には必ず原因がある、心せよ』ですか…。



誕生日会



夏だ!!
祭りだ!!
縁日だ!!



花火

魚釣り、縁日、花火と夏らしい誕生日会でした。

宮嶋さんご夫妻による

ギター&マンドリン弾き語り



マンドリンの音色って味があり素敵ですね。普段あまり動けない患者さんも一生懸命、手をたっていました。



さらコーナー
待って言われりゃ、そりゃ待ちますよ!
私だつてもう1歳、お姉ちゃんですから。けどね、なんで食べ物が出てくる時に必ず「待って!」って言うの? しかも全員が。よだれは出るわ食べたいわ... どんなに頑張つても良い顔なんて、できましょん!

8月4日 1歳



いきいき介護



1病棟 介護員
小沢 のり子

残暑厳しい9月ですが、皆さん体調を崩されていませんか? 季節の変わり目は体調を崩しやすいのでお気を付けてください。9月といえば敬老の日です。私は昨年祖母が亡くなり、家族で祝える敬老の日がなくなってしまいました。祖母がいた時は、好きなものをみんなで食べたり、何をプレゼントしようかと考えながら買い物をしたりと、どこの家庭にでもあるありふれた光景が我が家にもありました。祖母は東日本大震災を機に約6年間認知症を患いました。出来ることが年々少なくなり、分かる人も日に日に減り、家族が途方に暮れる日が続きまして。歩くことが大好きでしたが、歩くこともままならなくなり、孤独にならないよう家族で支えてきました。今思えばまだまだ何かできたのではないかと思います。でも、どんなに認知症を患っても家族の心の中ではいつも元気で明るくちょっと厳しく、でも孫やひ孫には優しい祖母は今でも健在です。病院では今月14日に敬老の日のお祝いとおやつパーティーを開催します。是非ご家族の方もお祝いしにいらしてください。私も自分の祖父や祖母のようにお祝いさせていただきます。



★スタッフ紹介★

3病棟 看護師
いわた けいこ
岩田 恵湖
星座：牡羊座
血液型：A型



趣味：他国の人たちと話しその国の風習・生活を知る事、狂言・映画鑑賞、溪流釣り



私には社会人として独立していった4人の子供がいます。孫は3人で、一番上の5歳の孫と去年の夏に2人で台湾旅行に行ってきました。一人旅が好きな私ですが、孫との旅行は最高に楽しいものでした。台湾の市場にマンゴー・スターフルーツ・グアバなどのトロピカルフルーツが並んでいたのが、私が育った南米ブラジルの様でも懐かしく思えました。今年は3年ぶりにブラジルに帰る予定で、母に会えるのを楽しみにしています。

私は温泉も大好きで、温泉の近くで溪流釣りも楽しんでます。以前はおにぎりとお新香という軽い弁当持参で出かけていましたが近頃はコンビニ弁当です。でもぬか床は大切にしていって美味しいお新香ができるように頑張っています。



◆敬老会&おやつパーティー

14日(金) 14:00~ 各病棟ダイルームにて

◆誕生日会

14:00~ 各病棟ダイルームにて
1病棟 7日(金)
2病棟 19日(水)
3病棟 12日(水)

◇◇ 9月の予定 ◇◇

敬老の日



《 秋祭りのお知らせ 》

日時：10月13日(土) 13:00~ (雨天時：院内開催)
場所：当院前庭 (雨天時：各病棟)

当日は職員手作りの焼きそば・たこ焼き・綿菓子・お汁粉などの模擬店や、患者さん・病棟スタッフによるイベントもごさいます。どうぞ、ご家族の皆様も患者さんと一緒にご参加いただき、楽しいひと時をお過ごしください。

